「ＩＣＴ」×「考え，議論する道徳」×「振り返り」

志布志市立松山小学校　教論　福永　晋吾

目　次

1　研究の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
⑴　研究主題
⑵　研究主題設定の理由

2　研究の構想 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
⑴　研究のねらい
⑵　研究の仮説
⑶　研究計画と方法

3　研究・実践の内容について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
⑴　仮説１について
⑵　仮説２について
　　仮説１・仮説２の授業改善における成果と課題
⑶　仮説３について

4　研究のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
⑴　研究の成果
⑵　今後の課題

〔引用・参考文献〕

・『小学校学習指導要領』	文部科学省	平成 29 年
・『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』	文部科学省	平成 29 年
・『Society 5.0 に向けた人材育成～社会が変わる，学びが変わる～』	文部科学省	平成 30 年
・『道徳に係る教育課程の改善等について』	中央教育審議会	平成 26 年
・『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』	中央教育審議会	平成 28 年
・『大隅学力向上リーフレット』	大隅教育事務所	令和 4 年
・『学力向上と学校改革につながるアクティブ・ラーニング』中島博司	茨城県立並木中等教育学校	令和 元 年

Ⅰ　研究の概要

(1)　研究主題

「ＩＣＴ」　×　「考え，議論する道徳」　×　「振り返り」

⇓

ＩＣＴ活用や振り返り活動を含む， 質の高い多様な指導方法の検証と授業改善を通して， 「考え，議論する」道徳科授業の実現と充実を図る

(2)　研究主題設定の理由

ア　社会情勢から

文部科学省が目指す「Society 5.0 に向けた人材育成～社会が変わる，学びが変わる～」によると，今後グローバル化が進展する中で，様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや，科学技術の発展や予測困難な社会・経済の変化の中で，人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となると指摘されている。こうした課題に対応していくためには，社会を構成する主体である一人一人が高い倫理観をもち，人としての生き方や社会の在り方について，時に対立がある場合を含めて，多様な価値観の存在を認識しつつ，自ら感じ，考え，他者と対話し協働しながら，よりよい方向を目指す道徳性（資質・能力）を備えることがこれまで以上に重要であり，こうした資質・能力の育成に向け，道徳教育の充実を図る必要があると考えた。

イ　教育の流れから

平成 26 年 10 月「道徳に係る教育課程の改善等について」の答申を踏まえ，学校教育法施行規則及び学習指導要領の一部を改正し，道徳の時間を教育課程上「特別の教科 道徳」（道徳科）として新たに位置付け，その目標，内容，教材や評価，指導体制の在り方が見直された。

また，GIGA スクール構想により，児童一人一人に個別最適化され，創造性を育むＩＣＴ環境の実現に向けて一人一台端末の整備が進んでいる。Society 5.0 時代に生きる児童にとって，ＰＣ端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムであり，令和の時代における学校のスタンダードである。これまでの教育実践とＩＣＴとのベストミックスを図っていくことで，よりよい教育を目指すことも教育者としての責務であると考えた。

ウ　本校の教育目標から

本校は，「知的好奇心を高め，進んで学び，進んできたえ，豊かな心をもつ子どもを育成する」を学校教育目標とし，人権尊重の理念のもとに児童一人一人の個性や能力の伸長を図ることを学校経営の基調と定めている。本主題である「ＩＣＴ」「振り返り」の充実を図り，「考え，議論する道徳」の実現・充実を図る授業改善を行うということは，児童一人一人が，自分の思いや考えを進んで伝え合いながら，互いの考えを認め合い，目的意識をもって問題を自律的・協働的に解決することに繋がる。そして，その中で自己の生き方についての考えを深め，“生きる力”の育成を図るとともに，本校の教育目標の具現化を行うことができると考えた。

エ　児童の実態から

担任する第２学年の発達の段階として，家族だけではなく，家の周りの人や学校の人々，友達などとの関わりが次第に増えていくが，発達的特質と経験の少なさから自分中心的な考え方を

しがちである。そのため，人も自分と同じ感じ方や考え方であると考え，異なる感じ方や考え方を否定する傾向がある。しかし，自分のことばかりを考えたり，自分の思いだけを主張したりしていては望ましい人間関係を構築することはできない。また，本学級の児童の実態として，宗教観の異なる外国籍児童が在籍している。宗教観の違いは，道徳的価値である「人間としての在り方や生き方の礎」の捉え方の違いであるとも言える。そのため，他者の考えに触れ，多面的・多角的な見方を育む指導と自己を見つめ直す振り返り活動を重視することで，“豊かな人間性”や“生きる力”を育むことに繋がると考え，そのための授業改善の必要性を感じた。

以上のような現状を踏まえ，本研究主題を「ＩＣＴ」×「考え，議論する道徳」×「振り返り」として，「考え，議論する道徳」の実現と充実を目指し，ＩＣＴ活用や振り返り活動を含む多様な指導方法を検証し，教師の指導法改善を図っていくよう，授業改善・研究を進めた。

２　研究の構想

(1)　研究のねらい

平成 29 年告示，小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」では，以下のように述べている。

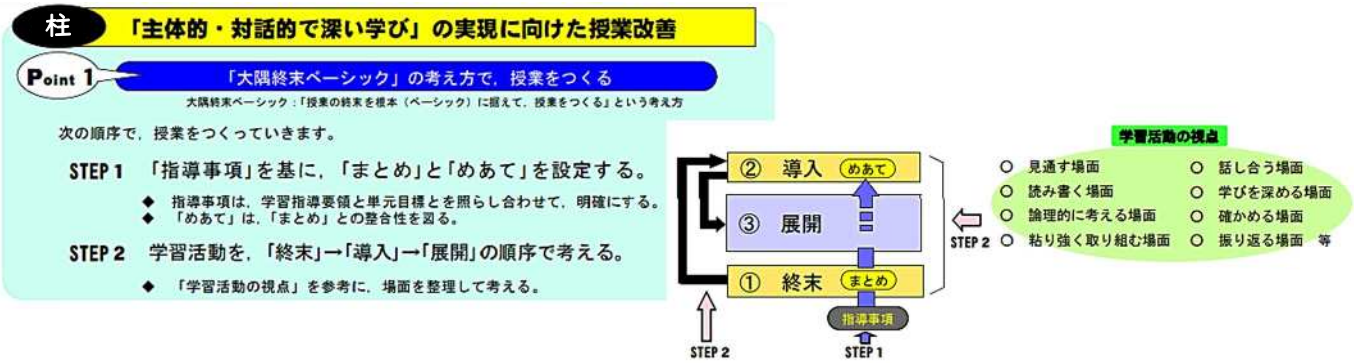
> 道徳教育は，人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり，同時に，民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるものでもある。また，道徳教育を通じて育成される道徳性，とりわけ，内省しつつ物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意志や態度，豊かな情操などは，「豊かな心」だけでなく，「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり，「生きる力」を育むために極めて重要なものである。

また，平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」において次のように述べている。

> 道徳教育においては，他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え，向き合う「考え，議論する道徳」を実現することが，「主体的・対話的で深い学び」を実現することになると考えられる。

本研究では，「考え，議論する道徳」の在り方について理解を深め，ＩＣＴ活用や振り返り活動の充実を含む質の高い多様な指導方法の確立を目指すよう授業改善を行っていく。道徳科学習の充実が，児童の道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育て，「生きる力」の育成に繋がるのではないかと考え，本研究のねらいとすることにした。

また，大隅学力向上リーフレット（令和４年度版）に記載されているとおり，授業改善の柱を「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」とし，大隅終末ベーシックの考え方を基に学習活動に取り組んだ。



⑵　研究の仮説

仮説Ⅰ　授業改善
「考え，議論する道徳」の在り方について理解を深め，質の高い多様な指導方法を工夫することで，児童一人一人が道徳的課題を自分自身の問題と捉え，児童の“生きる力”を育成する「考え，議論する」道徳科授業が実現できるのではないか。
＜仮説Ⅰに関する視点＞ **質の高い多様な指導方法の検討・授業改善**（「考え，議論する道徳」の在り方について理解）

仮説２　授業改善
ＩＣＴ活用による“他者の考えに触れ，多面的・多角的な見方”を育む指導を行うことで，対話による考えの拡張と深化を図り，児童の“生きる力”を育成する「考え，議論する」道徳科授業が実現できるのではないか。
＜仮説２に関する視点＞ **ＩＣＴ活用による授業改善**（対話的活動の充実）

仮説３　全教科で実施
R80 を活用した“考えを深め”“書くこと”の能力を育てる振り返りを充実させることで，自己の生き方についての考えを深め，児童の“生きる力”を育成する「考え，議論する」道徳科授業が実現できるのではないか。
＜仮説３に関する視点＞ **振り返り活動の充実**（R80，ダイヤモンド・サイクル）

【目指す子ども像】
- 道徳的課題を自分自身の問題と捉え，自律的・協働的な解決を目指すことができる子ども
- 自分の思いや考えを進んで伝え合うことができる子ども
- 互いの考えを認め合い，自他を高め仲良く学び合える子ども
- 自己を振り返り，生き方についての考えを深めることができる子ども

【活動の柱】
- **質の高い多様な指導方法の検討・授業改善**
  （授業改善　＝　「主体的・対話的で深い学び」つまり「考え，議論する道徳」の実現に向けた授業改善を目指す）
- **ICT 活用による授業改善**
- **振り返り活動の充実**

※　今年度，「考え，議論する道徳」の在り方について理解を深めるとともに，上記３つを活動の柱として道徳科の研究を行う。しかし，「主体的･対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と振り返り活動の充実は，道徳科のみならず全教科で取り組み，児童の「生きる力」の育成を目指す。

⑶　研究計画と方法

時期	計画内容
４月	・アンケートによる児童の実態把握 ・学習指導要領の内容に合った各教科における単元目標と評価規準の設定 ・上記単元目標と評価規準を組み込んだ単元の指導計画の作成 ・指導計画に沿った各単元の振り返りカードの作成
４月以降	・指導計画に沿った教材・教具の作成 ・各単元の授業計画の組み立て（板書計画・発問計画） ・実際の指導＜仮説１・２・３の検証＞ ・実際の指導の振り返りと次の指導へのフィードバック
12 月	・児童の変容の確認（実態調査・行動確認・振り返りカードやワークシート）

３　研究・実践の内容について

⑴　仮説１について

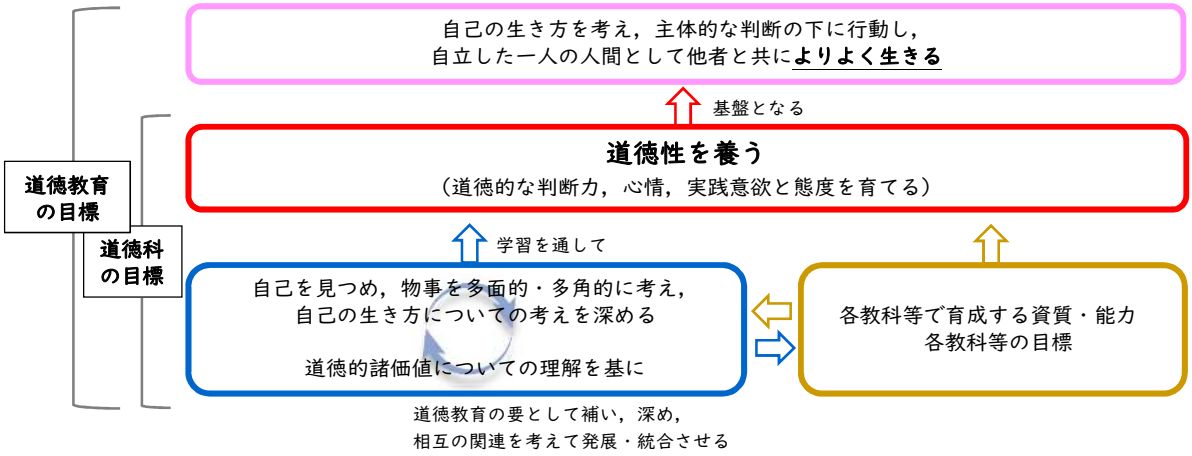
仮説１　授業改善
「考え，議論する道徳」の在り方について理解を深め，質の高い多様な指導方法を工夫することで，児童一人一人が道徳的課題を自分自身の問題と捉え，児童の“生きる力”を育成する「考え，議論する」道徳科授業が実現できるのではないか。
＜仮説１に関する視点＞ **質の高い多様な指導方法の検討・授業改善**（「考え，議論する道徳」の在り方について理解）
＜実践項目＞ ■　個の実態把握 ■　道徳教育と道徳科の目標を把握し，「考え，議論する道徳」の在り方について理解を深める ■　質の高い多様な指導方法の検討

■　個の実態把握

４月アンケートによる児童の実態把握と定期的な「学校楽しぃーと」等を活用する。また，児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める。ただし，道徳科における評価は数値などによる評価は行わず，個人内の成長の過程を重視して行う。

■　道徳教育と道徳科の目標を把握し，「考え，議論する道徳」の在り方について理解を深める

【道徳教育と道徳科の目標とは】



【道徳教育の要となる道徳科の目標から読み解く「考え，議論する道徳」】

道徳教育の要となる道徳科の目標が示す「道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して」を読み解き，学習の質の向上を目指す。

学習指導要領（平成 29 年告示）
「第３章 特別の教科 道徳」の「第１ 目標」

第１章総則の第１の２の⑵に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基礎となる道徳性を養うため，

道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して，

道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

「道徳科の目標」
最終的な目標は，道徳教育と同じ「道徳性」の育成

「道徳科の学習」
・児童の道徳性を養うための学習 ＝ 「考え，議論する道徳」への学習の質的転換

【前提】道徳的価値についての理解を基に
・自己を見つめる
・物事を多面的・多角的に考える
・自己の生き方についての考えを深める
道徳科における「見方・考え方」

「道徳科」で育てる資質・能力
・道徳的な判断力
・心情
・実践意欲と態度
＝ 道徳性 ＝ 自立した人間として他者と共によりよく生きる実践（行為・表現等）の基盤になる

■ 質の高い多様な指導方法の検討・授業改善

（授業改善 ＝ 「主体的・対話的で深い学び」「考え，議論する道徳」の実現に向けた授業改善）

【「主体的・対話的で深い学び」とは】

「各教科の特質に応じた見方・考え方」を働かせ，主体的な学びと対話的な学びが相互に関わり合うことで深い学びに発展するという視点

・ 主体的な学び

学ぶことに興味・関心をもち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる。

・ 対話的な学び

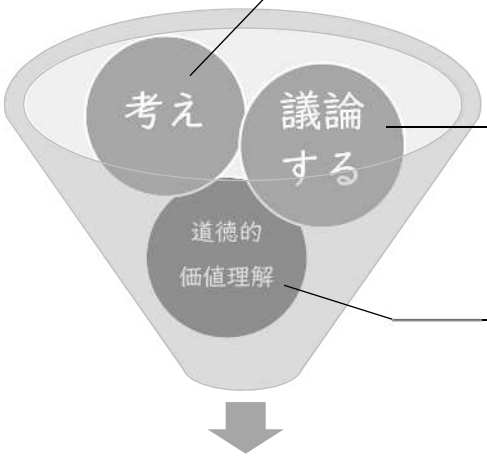
子ども同士の協働，教職員や地域の方との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める。

・ 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したりする。また，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

道徳科における「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」は，「様々な事象を，道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え，人間としての生き方について考えること」である。

【「考え，議論する道徳」とは】



考えを深める
・主体的に
・自分との関わりで

主体的な学び
自己を見つめる
自分の感じ方･考え方を明確にする

他者との対話や協働
・多様な考え方や感じ方と出会う
・交流する

対話的な学び
多面的・多角的に考える
自分の感じ方・考え方をより明確にする

【前提】道徳的価値理解
・価値理解　人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること
・人間理解　大切であってもなかなか実現することができない弱さなども理解すること
・他者理解　道徳的価値を実現したり，実現できなかったりする場合の感じ方，考え方は一つではない，多様であるということを理解すること

学びの質の高まり
深い学び

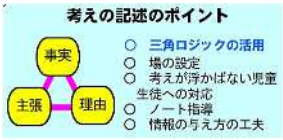
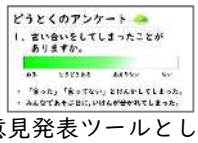
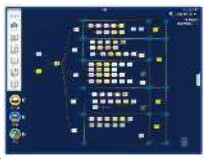
⑵　仮説２について

仮説２　授業改善
ＩＣＴ活用による“他者の考えに触れ，多面的・多角的な見方”を育む指導を行うことで，対話による考えの拡張と深化を図り，児童の“生きる力”を育成する「考え，議論する」道徳科授業が実現できるのではないか。
＜仮説２に関する視点＞ ＩＣＴ活用による授業改善（対話的活動の充実）
＜実践項目＞ ■　個の実態把握 ■　質の高い多様な指導方法の検討・授業改善の一環としてＩＣＴを活用する

■　**質の高い多様な指導方法の検討・授業改善，ＩＣＴの活用**

	読み物教材の登場人物の自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	ＩＣＴの活用
ねらい	教材の登場人物や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して，道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して，道徳的な問題を多面的･多角的に考え，児童一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して，道徳的価値の理解を深め，様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	他者の考えに触れ，多面的・多角的な考え方を知るためのツールとしてＩＣＴを活用し，対話的活動の充実を図る。
	自我関与	問題解決的	体験的	多面的・多角的
それぞれのねらいの実現を目指し，授業改善を行った。 授業改善は「ねらい・指導事項」を基に，「めあて」と「まとめ」を設定し，学習活動を「終末」→「導入」→「展開」の順序で考えた。（大隅終末ベーシック）				

仮説１・仮説２の授業改善における成果と課題

	読み物教材の登場人物の自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	ＩＣＴの活用
研究・実践	教科書の活用 読み物教材の登場人物に自我関与させ，活発な意見交換を行った。 ワークシートの活用 自己を見つめるために，自分の意見を書き出し視覚化･自己認識させた。 	モラルジレンマ教材 教科書の活用だけでなく，児童の実態に応じてモラルジレンマ教材の活用も行った。道徳的な問題に葛藤し，多面的･多角的な見方があることに気付かせる教材選定を行い授業に臨んだ。 三角ロジックの活用 対話や協働を行う際は，「主張」「事実」「理由」を繋げて話す三角ロジックを意識させた。  	役割演技 役割演技などを行い，対話的活動を行うことで，心情理解･体験的活動を行った。 	導入での活用 道徳アンケートなどの結果を視覚的に示した。  意見発表ツールとして ロイロノートなどで意見を提出させ，意見の比較検討を行った。  心情メーターとして活用 Google Jambord やロイロノートなどの協働編集機能を使い，心情を視覚的に捉えることに役立った。
指導方法の効果・成果	児童が読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で，道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的である。	出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効である。 他者と対話や協働しつつ問題解決する中で，新たな価値や考えを発見・創造する可能性がある。 問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値がある。	心情と行為をすり合わせることにより，無意識の行為を意識化させることができ，様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効である。 体験的な学習を通して，取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能になる。	一人一台端末を活用し，他者の意見を視覚的に確認し，比較することができるため，多面的･多角的な見方を学ぶ上で効果的であり，対話的活動の活性化がなされた。 発表に関して困り感のある児童が，意見を伝える際の補助具として活用でき，個別最適な学びの手助けとなる。
指導上の留意点・課題	教師に明確な主題設定がなく，指導観に基づく発問でなければ「登場人物の心情理解のみの指導」になりかねない。	「明確なテーマ設定の下，多面的･多角的な思考を促す『問い』が設定されているか」，「その『問い』の設定を可能とする教材が選択されているか」，「議論し，探究するプロセスが重視されているか」といった検討がなければ，単なる話合いの時間になりかねない。	「明確なテーマの下，心情と行為との葛藤を意識化させ，多面的･多角的な思考を促す問題場面が設定されているか」，「その問題場面の設定を可能とする教材が選定されているか」といった検討や準備がなければ，主題設定の不十分な指導になりかねない。	児童が考える場面とＩＣＴを操作する場面設定やＩＣＴ活用のルールなどを明確化しなければ，ＩＣＴ機器自体が授業への集中を妨げる要因になりかねない。 技術発達は日進月歩なので，教師自身も学び続ける姿勢が重要である。

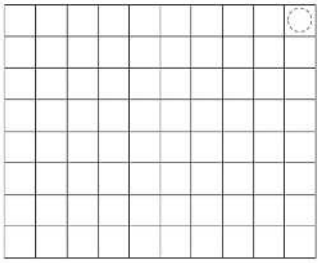
⑶　仮説３について

仮説３　全教科で実施
R80 を活用した“考えを深め”“書くこと”の能力を育てる振り返りを充実させることで，自己の生き方についての考えを深め，児童の“生きる力”を育成する「考え，議論する」道徳科授業が実現できるのではないか。
＜仮説３に関する視点＞ 振り返り活動の充実（R80，ダイヤモンド・サイクル）
＜実践項目＞ ■　R80，ダイヤモンド・サイクルを活用した振り返り活動の実施 ■　全ての教科において振り返りの時間を設け，振り返りの記入と発表による共有を行う ■　振り返りによる個の実態把握（毎時間実施）

■　R80，ダイヤモンド・サイクルを活用した振り返り活動の実施

【R80（アールエイティ）とは】

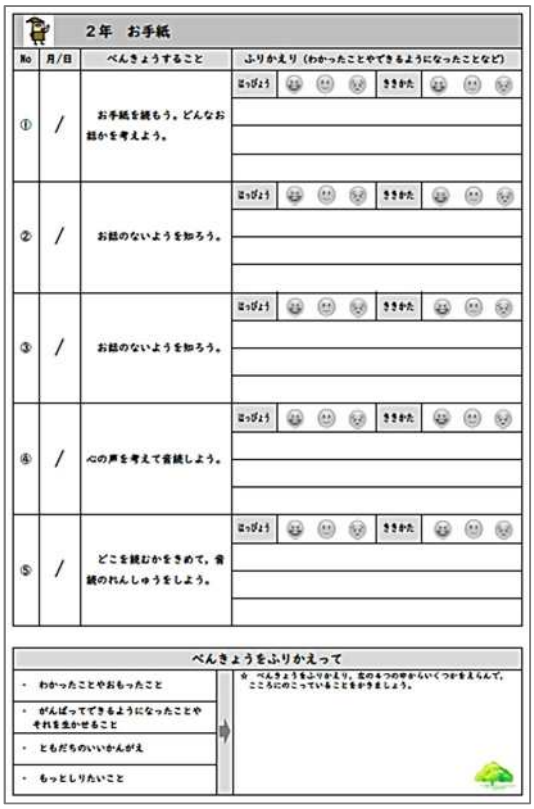
「Ｒ80」とは，茨木県立並木中等教育学校校長の中島博司先生(当時)が考案した授業の振り返り手段である。Ｒには，reflection(振り返り)とrestructure（再構築）の意味が込められ，80 には80 字以内で記述するという意図がある。また，「Ｒ80」には必ず接続詞（つなぎ言葉）を用いて，二つの文で書き表すという決まりがある。したがって，学習の振り返りとして“考えを深める”手段となるとともに簡潔で明確な文章を“書くこと”の能力を育てることに繋がるという意図のもと実践した。



■　全ての教科において振り返りの時間を設け，振り返りの記入と発表による共有を行う

授業の最後と単元の最後に「振り返り」の時間を設け，個人で考える授業の振り返りを学級全体で対話的に共有する。振り返り方法は，上記「R80」と「大隅学力向上リーフレット」に記載されている「ダイヤモンド・サイクル」を応用し，文字数やつなぎ言葉を使うなどのルール化と観点を決めての振り返りを行うように促した。

これらを基に，単元ごとの見通しと振り返りの記入欄のあるワークシートを作成し，単元の最初に配付した。ワークシートをノートに貼り，毎時間振り返りを積み重ねた。



4　研究のまとめ

(1)　研究の成果（児童の実態・研究の仮説から）

本年度の実践前と実践後の２年生の実態（道徳科：児童数９人）	実践前（R4.４月）	実践後（R4.12月）	差
1　道徳の授業は楽しいですか。	78%	100%	＋ 22
2　道徳の授業で，自分の考えをもつことができますか。	67%	92%	＋ 25
3　道徳の授業で，自分の意見を発表することができますか。	56%	89%	＋ 33
4　友達にやさしくできましたか。	89%	100%	＋ 11
5　生き物の命を大切にできましたか。	100%	100%	± 0
6　きまりを守ることができましたか。	78%	89%	＋ 11
7　いじめや差別をなくすような行動ができましたか。	89%	100%	＋ 11
8　言い合いやけんかをしてしまったとき，相手の話（なぜおこっているかや理由など）を聞いたことがありますか。	45%	89%	＋ 44
9　相手の話を聞くことは，大切だと思いますか。	89%	100%	＋ 11
10　振り返りなどで，自分の意見を短い文で書くことは好きですか。	56%	89%	＋ 33

【アンケートの結果から】

・　**質の高い多様な指導方法の検討・授業改善**を実践することで，主体的に対話をする機会が増えた。上記１，２，３，８，９に見られるように，道徳の授業に意欲的に取り組み，自分の考えをもつことで他者との対話や協働的な学習に臨むことができたという児童が増えた。

・　４，５，６の結果から，児童の心の成長が分かる。友達や生き物に優しくできるようになったり，きまりを守れるようになったりしている。道徳科授業で学んだことを自分事と捉え，日常の生活へ生かしていることが，この結果から分かる。

・　７の結果から，全ての児童がいじめや差別がなくなるよう自ら行動ができている。本学級の児童の実態として，宗教観の異なる外国籍児童が在籍している。「考え，議論する道徳」を目指し，様々な考え方に触れる中で，多面的・多角的な見方を育むことができたと言える。道徳的価値を正しく理解し，自己の生き方をよりよいものとしている。

【授業での児童の様子や声から】

・　質の高い多様な指導方法の検討・授業改善の一環として，**ＩＣＴ活用による授業改善**を行うことで児童の授業に対する集中力が伸びた。導入で ICT を活用し，学ぶことへの興味・関心を高め，“学びたい”という思いをもたせることができた。また，ＩＣＴの活用は，心情を視覚化する役割も果たし，多面的・多角的な見方を学ぶ上で効果的であり，対話的活動の活性化がなされた。さらに，発表に関して困り感のある児童の支援や心情理解のツールとしてとても効果的だということが確認できた。

・　R80，ダイヤモンド・サイクルを用いた**振り返り活動の充実**は，児童の様子から“書くこと”の能力の向上と語彙力の増加，文を書く速度や精度を高めることができた。始めは短い文しか書くことができなかった児童も，つなぎ言葉を使うことで自己の考えを深めた文を書くことができるようになり，自己を見つめ“考えを深める”ことに効果的であった。

(2)　今後の課題

今回の研究「ＩＣＴ」×「考え，議論する道徳」×「振り返り」では，ＩＣＴ活用や振り返り活動を含む，質の高い多様な指導方法の検証と授業改善を通して，「考え，議論する」道徳科授業の実現と充実を図ることができたと言える。しかし，道徳教育とは，学校の教育活動全体を通じて行うものであり，取り組むべき内容が幅広い。まだまだ研究半ばであり，今後とも更なる授業改善を行い，道徳教育の質的な向上を図るよう研究と修養に励んでいきたい。